

クラス	302	担当教員	工藤 英美
テーマ	子どもの発達保障から「インクルージョン」の意義を考える		
著書・論文	【論文】幼稚園における知的障害児を包摂したインクルーシブ教育の実践方法—韓国『2019 改訂ヌリ課程運営支援資料』から—。人間発達学研究(14),pp.91-101.（共著）. 2023.		
研究課題等	韓国のインクルーシブ教育・保育の動向--『2019 改訂ヌリ課程運営支援資料』 から、人間発達学研究, (13)、pp.61-72.（共著）. 2022.		
	集団保育とインクルーシブ保育—保育方法からのアプローチ—。日本福祉大学子ども発達学論集 13,pp.59-63.（単著）.2021.		
	【研究課題】 幼児期の表象発達、インクルーシブ保育		
ゼミナール概要			
キーワード：乳幼児の発達、発達保障、インクルーシブ保育、ソーシャル・インクルージョン			
目的、内容、方法、授業計画等：			
目的：			
本ゼミでは、子どもの発達について深く理解し、 <u>全ての子どもの発達を保障することと「インクルージョン」の意義</u> について、活動を通して探求していくことが目的です。本ゼミでは、発達支援施設、保育所、子ども食堂などを研究フィールドとし、卒業論文に取り組みます。また、卒業論文を書き上げる上で必要なスキル（学術論文を読む、ディスカッションやプレゼン、論文を書くなど）の習得と向上を目的とします。			
そのために、以下の学習目標を掲げます。			
① 乳幼児期の発達過程や、発達と発達つながりに関する知識を身につける。			
② 様々な背景を持つ子どもの発達支援に関する知識を身につける。			
③ 学術論文を読めるようになる。			
④ 自分の疑問、興味、関心を整理し、卒業論文執筆のための研究計画を立案できる。			
内容：			
本ゼミでは、自明とされていることを改めて問い直し、 <u>全ての子どもの発達保障と「インクルージョン」</u> について、理論と実践の両軸で考えていきたいと思います。そのためには、まず子どもの発達過程についての理解を深めます。ただ単に1人の子どもの変化を捉えるのではなく、子どもの周囲の環境と子どもの発達について知識を深めます。同時に、地域の子どもの関わる機会を設定し、様々な背景を持つ子どもと関わりながら、インクルーシブ保育を実践する上での課題を見つけていきます。次に、子どもの発達あるいはインクルーシブ保育に関する文献を購読し、プレゼンやディスカッションを通して、乳幼児期の発達過程や発達支援に関する知識を深めていきます。その知識を踏まえながら、全ての子どもが楽しめる活動を計画し、全ての子どもの発達保障のためのインクルーシブ保育、また、地域社会を巻き込んで展開するインクルージョンについて考えていきます。			
授業計画等：			
3年次前期は、月1回程度、地域の保育所・発達支援センターに出かけ、障害など多様な背景を持つ子どもと関わる活動を通して、子どもの発達について理解を深めます。3年次後期は、子どもと関わる活動を通して、自分の興味、関心がどこにあるのかを見つけ、卒業研究につながるような「問い」を設定していきます。また、文献講読を通して、論文の読み方やまとめ方、また、プレゼンやディスカッション等の卒業研究に必要なスキルを身につけます。			
4年次では、各自のテーマに沿って卒業研究を進め、卒業論文を完成させます。4年次前期中には、卒論のための調査や観察を実施します。4年後期では、調査や観察などの結果を分析し、卒論を執筆します。			
担当教員からのメッセージ			
子どもの「発達」に興味、関心がある人、子どもの行動を不思議だと思う人、特に歓迎します。			
ゼミでは教員からの教授ではなく、自分で「問い」を見つけ、調べ、探究していきましょう。そして、自分の考えをゼミの仲間聞いてもらい、また、仲間の発表も聞き、意見交換をしましょう。必要であれば、自分たちで活動の場を開拓していくといいと思います。			
それから、卒論を完成させるためには、共に学ぶ仲間の存在が大切だと思います。ゼミの仲間がそんな仲間になれるといいと思いますので、3年次4月に、4年ゼミ生と一緒にゼミ合宿を行い、親睦を深めます。ゼミ合宿では、文献講読を行い、論文の読み方やまとめ方、また、プレゼンやディスカッション等を行いながら、「考える」「意見を言う」「意見を聞く」経験を積みたいと思います。卒業する時には、ゼミの仲間が何でも言える仲間になっていると嬉しいです。			